

*The Japanese
Society of
Toxicology*

**Vol. 40 No. 3
June 2015**

毒理学ニュース

一般社団法人日本毒性学会

The Japanese Society of Toxicology

毒性学ニュース

Contents

日本毒性学会からのお知らせ

第 18 回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験	23
日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験願書	25
認定試験受験資格のための評点表	27
第 18 回日本毒性学会基礎教育講習会案内	29
第 18 回日本毒性学会基礎教育講習会日程	30
第 16 回日本毒性学会生涯教育講習会案内	31
日本毒性学会認定トキシコロジスト総会のお知らせ	32
第 42 回日本毒性学会学術年会のご案内 (第 6 報)	33
社員総会開催のご案内と委任状提出のお願い (再)	36

その他のお知らせ

第 22 回 HAB 研究機構学術年会	37
シンポジウム「モレキュラー・キラリティー 2015」	37
CBI 学会 2015 年大会のご案内	38
第 22 回日本免疫毒性学会学術年会 (JSIT2015)	39

J. Toxicol. Sci. 投稿規程

Fundam. Toxicol. Sci. 投稿規程

入会案内・変更手続き

一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規程

一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定資格更新に関する細則

第 18 回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験

日本毒性学会
 教育委員会委員長 務台 衛
 認定試験小委員会委員長 久米 英介

下記の要領で認定試験を実施いたします。

受験希望者は毒性学ニュースまたは学会ホームページに掲載の「一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規定」を熟読の上、出願して下さい。

出願時に提出された書類に基づく書類審査で上記規定に記載されている一定の基準に達しない場合は、認定試験を受けることができませんので出願に際してはこの点に十分に気をつけて下さい。

書類審査で受験資格が認められた場合、試験日の10日前までに受験票をご本人宛送付いたします。試験当日は必ず受験票を持参して下さい。

1. 日 時

2015年10月4日(日)(9:15~16:30予定)

2. 会 場

昭和大学 旗の台キャンパス(予定)

(東京都品川区旗の台1-5-8)

* 東急池上線・大井町線

旗の台駅東口下車 徒歩5分

3. 出願期間

2015年7月1日(水)~8月14日(金)(必着)

4. 出願書類

1) 願書と受験者確認票

2) 写真 2枚(縦3.5cm×横3cm)

(願書と受験者確認票の所定欄に貼付)

3) 認定試験受験資格のための評点表および証明資料

出願時には次のことにご注意下さい。

- ・ 会員歴：出願時にJSOTの会員であること
- ・ 研究歴

詳細は「一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規定」をご覧下さい。出願書類は記録の残るもの(書留、信書便等)でお送り下さい。

5. 受験料

30,000円(下記の郵便振替口座にお振込の上、払込票のコピーを出願書類に同封下さい)

郵便振替口座番号：00150-9-426831

加入者名：一般社団法人日本毒性学会

※領収書につきましては、振込時の振替払込請求書兼受領証にかえさせていただきます。

(通信欄に会員番号を明記下さい)

6. 出願書類送付先・問合せ先

一般社団法人日本毒性学会 事務局

認定試験小委員会

〒102-0074 東京都千代田区九段南2-1-30

イタリア文化会館ビル8階

(株)メディカルトリビューン内

TEL: 03-3239-7264 / FAX: 03-3239-7225

e-mail: jsotq@jsot.jp

第 18 回日本毒性学会 認定トキシコロジスト認定試験受験者確認票

写真貼付欄

受験番号

氏 名

(氏名をご記入下さい)

切
り
取
り
線

日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験願書

年 月 日提出

ふりがな

氏 名： _____

会員番号： _____

生年月日：西暦 年 月 日

所属機関： _____

職 名： _____

学 歴：

西暦 年 高等学校 科卒業

西暦 年 大学 学部 学科卒業

西暦 年 大学院 研究科 課程修了

職 歴／毒性研究・研究歴（種類，期間）：

受験票送付先：〒

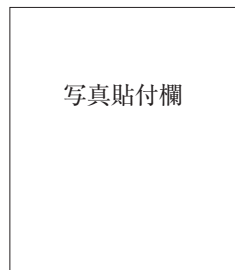
住 所

電話：

FAX：

E-mail：

（お持ちの方は必ずご記入下さい）



切
り
取
り
線

認定試験受験資格のための評点表

「一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規程」の付表（脚注に注意）を参考に自己採点の上，下表（評点表）の該当箇所に評点を記入して下さい。

なお，下表中の論文についてはそのコピーを，学会等参加については参加証のコピーを，学会等発表については学会開催年を付記した講演要旨のコピーを，また，講習会については参加証のコピーを，それぞれ証明資料として添付して下さい。

（評点表にも忘れずに氏名と所属機関をご記入下さい）

氏名： _____ 所属機関： _____

種別	評点項目	評点
論文	毒性学関連論文 ^{1), 2)}	
学会活動	発表 ¹⁾	
	JSOT 学術年会	
	参加	
	発表 ¹⁾	
講習会等	毒性学に関連する学会 ³⁾ の学術年会	
	参加	
講習会等	基礎教育講習会	
	JSOT 主催・公認講習会 ⁴⁾	
合計		

- 1) 筆頭著者もしくは責任著者（corresponding author）については10点，それ以外の共同発表の場合は5点とする。
- 2) レフリー制度が整っている学術誌に限る。
- 3) IUTOX 定期総会（ICT），ASIATOX 定期総会，SOT 年会，EUROTOX 年会，日本安全性薬理研究会，日本衛生学会，日本環境変異原学会，日本産業衛生学会，日本獣医学会，日本実験動物学会，日本製薬医学会，日本先天異常学会，日本中毒学会，日本毒性病理学会，日本内分泌攪乱化学物質学会，日本免疫毒性学会，日本薬学会，日本薬物動態学会，日本薬理学会
- 4) JSOT 生涯教育講習会等

切り取り線

第18回日本毒性学会基礎教育講習会案内

日本毒性学会

教育委員会委員長

務台 衛

基礎講習会小委員会委員長

小野寺博志

本講習会は、トキシコロジストの系統的な基礎教育あるいは再教育を目的としております。集中講義によってトキシコロジー全般にわたる理解を深めたうえで、秋季に開催されます第18回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験受験にお役立て下さい。

3日間をかけて17名の先生方に講義していただきます。

尚、本講習会を受講されますと認定試験受験資格のための評点40点が付与されます。また、認定トキシコロジスト資格更新の際の評点獲得の対象にもなります。

受講を希望される方は、下記の受講申込方法でお申込み下さい。受講料入金の確認後、追って受講案内及び資料をお送りします(7月中旬頃)。

1. 日 時

2015年8月6日(木)～8日(土)

* 詳細につきましては次頁「日程」をご確認下さい。

2. 会 場

東京大学農学部 1号館
(東京都文京区弥生1-1-1)

3. 募集人数

150名(先着順)

4. テキスト

「[新版] トキシコロジー」(朝倉書店, 2009年刊)をテキストとし、その内容を中心に講義を行います。参加者はあらかじめ準備しておくことをお勧めします。

なお正誤表は学会ホームページに掲載されています。事務局でもテキストの申込みを受け付けております。①氏名②会員番号③送付先住所④電話番号⑤冊数を明記の上、メールまたはFAXでお申込み下さい。

5. 受講申込および受講料

1) 申込期間

2015年4月1日(水)～7月10日(金)

2) 申込方法

まず、日本毒性学会ホームページよりお申込み下さい。

参加登録フォーム:

<https://business.form-mailer.jp/fms/dc1eee3230949>

登録後、5日以内に次項の要領で受講料を納入下さい。

3) 納入方法

前号に同封の郵便振替用紙、または郵便局に備え付けの振替用紙に受講者氏名、会員番号(会員の方のみ)、所属、をご記入の上、下記振替口座へお振込み下さい。

郵便振替口座番号: 00150-9-426831

加入者名: 一般社団法人日本毒性学会

ネットバンキングをご利用の方は事務局までメールで受講者氏名、会員番号(会員の方のみ)、所属、振込日、振込金額をご連絡の上、下記銀行口座へお振込み下さい。

銀行: ゆうちょ銀行

支店: 〇一九(ゼロイチキョウ)支店

口座番号: 当座 0426831

口座名義: 一般社団法人日本毒性学会

4) 受講料

一般会員: 25,000円 学生会員: 5,000円

非会員: 30,000円 学生非会員: 8,000円

認定トキシコロジスト: 20,000円(2～3日受講)
10,000円(1日受講)

* 交流会(2日目開催)の費用は受講料に含まれます。

* 受講料はお申込みから5日以内にお振込み下さい。

* ご所属名でお振込みの際は、事務局までメールで受講者氏名(会員の方は会員番号)、所属、振込日、振込金額をご連絡下さい。

* 領収書につきましては、振込時の振替払込請求書兼受領証に代えさせていただきます。学会からの領収書が必要な場合は当日振替払込請求書兼受領証と交換いたします。

* 準備の都合上、できるだけ事前申込をお願いします。

* キャンセルに伴う返金に関しては、講習会資料事前送付前に限り、対応します。事務局から資料発送後は納入済み受講料の返金は原則として致しませんのでご了承下さい。

5) その他

昼食は各自ご用意下さい。講義室内での飲食は可能です。

6. 問合せ先

一般社団法人日本毒性学会 事務局

〒102-0074 東京都千代田区九段南2-1-30

イタリア文化会館ビル8階

(株)メディカルトリビューン内

TEL: 03-3239-7264 / FAX: 03-3239-7225

e-mail: jsotthq@jsot.jp

第18回日本毒性学会基礎教育講習会日程

月 日	#	時 間	学 科 目	講 師
8月6日 (木)			受付	教育委員会事務局
		09:00 - 09:10	委員長挨拶	小野寺 基礎講習会小委員会 委員長
			オリエンテーション	尾崎 基礎講習会小委員会 副委員長
	1-1 (1:00)	9:10 - 10:10	毒性学の基本概念	和久井 信 講師 (麻布大学 獣医学部)
	1-2 (1:00)	10:20 - 11:20	毒性発現機序	吉成 浩一 講師 (静岡県立大学 薬学部)
	1-3 (1:30)	11:30 - 13:00	動態・代謝, トキシコキネティクス	橋爪 孝典 講師 (大阪大谷大学 薬学部)
	1-4 (1:30)	13:55 - 15:25	臓器毒性・毒性試験 (1) (肝毒性, 腎毒性)	西矢 剛淑 講師 (第一三共 安全性研究所)
	1-5 (1:15)	15:35 - 16:50	臓器毒性・毒性試験 (2) (消化器毒性, 呼吸器毒性, 皮膚・粘膜毒性)	上田 誠 講師 (日本新薬 安全性・動態研究部)
1-6 (1:00)	17:00 - 18:00	臓器毒性・毒性試験 (3) (循環器毒性)	中村 裕二 講師 (東邦大学 医学部)	
8月7日 (金)	2-1 (1:00)	09:00 - 10:00	臓器毒性・毒性試験 (4) (神経行動毒性)	村上 雄一 講師 (田辺三菱 安全性研究所)
	2-2 (1:15)	10:10 - 11:25	臓器毒性・毒性試験 (5) (血液・造血毒性, 免疫毒性)	向井 大輔 講師 (食品農医薬品安全性評価センター 安全性試験室)
	2-3 (1:00)	11:35 - 12:35	臓器毒性・毒性試験 (6) (内分泌毒性, 運動器毒性, 感覚器毒性)	猪又 晃 講師 (エーザイ 筑波安全性研究部)
	2-4 (1:00)	13:30 - 14:30	臓器毒性・毒性試験 (7) (遺伝毒性)	濱田 修一 講師 (LSI メディエンス 創薬支援事業本部)
	2-5 (1:00)	14:40 - 15:40	臓器毒性・毒性試験 (8) (発がん性)	小川 久美子 講師 (国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター)
	2-6 (1:00)	15:50 - 16:50	臓器毒性・毒性試験 (9) (生殖発生毒性)	松本 清 講師 (武田薬品工業 薬剤安全性研究所)
	2-7 (1:00)	17:00 - 18:00	毒性オミクス・バイオマーカー	上原 健城 講師 (塩野義製薬 グローバルプロジェクトマネジメント部)
		18:00 - 20:00	交流会	
8月8日 (土)	3-1 (2:00)	09:00 - 11:00	リスクアセスメント・マネジメント 環境毒性 (環境汚染物質), 放射性物質, 紫外線, ナノマテリアル	小野 敦 講師 (国立医薬品食品衛生研究所 総合評価研究室)
	3-2 (1:30)	11:10 - 12:40	規制毒性試験法, 実験動物及び統計手法	榊富 直哉 講師 (田辺三菱製薬 安全性研究所)
	3-3 (1:30)	13:35 - 15:05	化学物質の有害作用 (1) (医薬品・化粧品, 食品・食品添加物)	宮本 索 講師 (武田薬品工業 薬剤安全性研究所)
	3-4 (1:00)	15:15 - 16:15	化学物質の有害作用 (2) (農業, 工業用化学物質, 天然毒性物質, 金属, 臨床中毒)	宮田 かおり 講師 (住友化学 国際アグロ事業部)
		16:15	受講証明書配布	小野寺 基礎講習会小委員会 委員長

第 16 回日本毒性学会生涯教育講習会案内

日本毒性学会

教育委員会委員長

務台 衛

生涯教育小委員会委員長

鈴木 雅実

本講習会は3コースを一日で学習するフレームで開催いたします。講習内容は、①トピックス（新しい科学及び技術に関する最新のトピックスを学習する）、②臓器毒性（各種臓器の毒性反応についてメカニズムを含め深く学習する）、③SD 育成講座（試験責任者として試験結果の解釈・理解・評価を深める為の知識を学習する）で構成します。また、環境毒性についても、講習内容に加えていきます。

なお、本講習会は、JSOT 認定講習会となっており、認定トキシコロジスト認定試験受験資格の評点獲得、および認定トキシコロジスト資格更新の際の評点獲得の対象となります。詳細は毒性学ニュースまたはホームページの『一般社団法人認定トキシコロジストの認定制度規程』をご覧ください。

受講を希望される方は、下記の参加申込方法でお申し込み下さい。参加費入金の確認後、追って受講案内及び資料をお送り致します（6月中旬頃）。

1. 日 時

2015 年 6 月 28 日（日）10：30～18：00

①トピックス：

SOT 2014

梅澤 雅和 先生（東京理科大学）

福島 亮 先生（塩野義製薬）

SOT 2015

鈴木 倫 先生（ヤクルト本社）

李 辰竜 先生（愛知学院大学）

②臓器毒性：

生殖毒性：

堀本 政夫 先生（千葉科学大学）

③SD 育成講座

環境毒性：

鑑迫 典久 先生（国立環境研究所）

非病理学者のための病理学講義：

義澤 克彦 先生（関西医科大）

2. 会 場

金沢市文化ホール

〒920-0864 金沢市高岡町15番1号

3. 参加費（当日申し込み）

※1日フルコースとして設定

会 員 当日 7,000 円

非会員 当日 10,000 円

認定トキシコロジスト 当日 5,000 円

4. 問い合わせ先

一般社団法人日本毒性学会 事務局

〒102-0074 東京都千代田区九段南2-1-30

イタリア文化会館ビル8F

（株）メディカルトリビューン内

TEL：03-3239-7264 / FAX：03-3239-7225

e-mail：jsotq@jsot.jp

日本毒性学会認定トキシコロジスト総会のお知らせ

日本毒性学会

教育委員会委員長

務台 衛

認定試験小委員会委員長

久米 英介

6月末に金沢市で開催予定の第42回日本毒性学会学術年會会期中に、認定トキシコロジストを対象とした認定トキシコロジスト総会を企画しております。総会には多くの先生方が参加されますので、今後の毒性学の方向性、研究等様々な意見交換の場として有効利用していただければと考えております。老若男女問わず認定トキシコロジストの先生方の積極的なご参加をお待ちしております。

参加希望の方は日本毒性学会事務局(jsothq@jsot.jp)まで電子メールにてお申込み(お名前、日本毒性学会会員番号、認定トキシコロジスト総会参加旨記載)の上、下記振込先までお振込みをお願いいたします。

1. 日時

2015年6月29日(月)

18:30～20:30(18:00より受付開始)

2. 会場

金沢都ホテル(金沢駅東口正面)

7階 鳳凰(西)の間

(〒920-0852 石川県金沢市此花町6-10)

<http://www.miyakohotels.ne.jp/kanazawa/>

3. 式次第

1. 認定トキシコロジスト総会
2. 新規名誉トキシコロジスト表彰式
3. 認定トキシコロジスト懇親会

4. 会費

認定トキシコロジスト:事前3,000円(当日4,000円)

名誉トキシコロジスト:事前3,000円(当日4,000円)

2015年度新規名誉トキシコロジスト:無料

(該当の方には別途ご案内させていただきます)

参加者数により、当日入場を制限させていただくことがございます。事前申込にご協力よろしくをお願いいたします。

事前申込締切:2015年6月15日(月)

5. 申込方法

日本毒性学会事務局(jsothq@jsot.jp)まで電子メールにてお申込み(お名前、日本毒性学会会員番号、認定トキシコロジスト総会参加旨記載)の上、下記振込先までお振込みをお願いいたします。

前々号Vol.40-1(2月号)に同封の郵便振替用紙をご利用いただくか、インターネットバンキング等をご利用ください。

インターネットバンキングにてお振込みの際には、振込人名義を会員番号、フルネーム(個人名)、「DJSOT ソウカイサンカヒ」と記載願います。

例:99999 ドクセイ タロウ DJSOT ソウカイサンカヒ

振込先

〈振替用紙・ゆうちょ銀行から〉

郵便振替口座:00150-9-426831

加入者名:一般社団法人日本毒性学会

〈他行から〉

銀行:ゆうちょ銀行

支店:〇一九(ゼロイチキュウ)支店

口座番号:当座 0426831

口座名義:一般社団法人日本毒性学会

第42回日本毒性学会学術年会のご案内（第6報）

1. 会期

平成27年(2015年)6月29日(月)～7月1日(水)

2. 会場

・石川県立音楽堂

〒920-0856 石川県金沢市昭和町20-1

TEL: 076-232-8111

<http://www.ongakudo.jp/>

・金沢市アートホール

〒920-0853 石川県金沢市本町2-15-1

TEL: 076-224-1660

<http://www.art-h.gr.jp/>

・ホテル日航金沢

〒920-0853 石川県金沢市本町2-15-1

TEL: 076-234-1111

<http://www.hnkanazawa.jp/>

3. テーマ

「健康と環境を衛る毒性学」

4. 年会長

鍛冶 利幸 (東京理科大学薬学部 教授)

5. 企画委員 (敬称略・五十音順)

青木 豊彦 (株)サンプラネット)

石塚真由美 (北海道大学)

市原 学 (東京理科大学)

上野 光一 (千葉大学)

小椋 康光 (昭和薬科大学)

小野寺博志 (医薬品医療機器総合機構)

菅野 純 (国立医薬品食品衛生研究所)

木村 朋紀 (摂南大学)

熊谷 嘉人 (筑波大学)

佐藤 雅彦 (愛知学院大学)

神野 透人 (国立医薬品食品衛生研究所)

鈴木 雅実 (中外製薬株)

関 二郎 (京都大学)

高崎 涉 (第一三共株)

遠山 千春 (健康環境科学技術国際コンサルティング)

苗代 一郎 (医薬品医療機器総合機構)

永沼 章 (東北大学)

中村 和市 (北里大学)

野村 護 (株)イナリサーチ)

姫野誠一郎 (徳島文理大学)

広瀬 明彦 (国立医薬品食品衛生研究所)

藤原 泰之 (東京薬科大学)

堀井 郁夫 (ファイザー株, 昭和大学)

務台 衛 (田辺三菱製薬株)

山田 久陽 (大正製薬株)

山田 英之 (九州大学)

山本 千夏 (東邦大学)

横井 毅 (名古屋大学)

吉田 武美 (薬剤師認定制度認証機構)

6. 特別企画 (予定, 敬称略)

1) 第13回市民公開セミナー

テーマ: 食品表示新時代

～かしこく摂ろう「健康食品」～

日時: 2015年6月28日(日)

午前10:00～12:00

場所: 金沢市アートホール

2) 年会長招待講演

(1) メチル水銀中毒症(水俣病)の研究史と神経病理学的研究

衛藤光明

(元・国立水俣病総合研究センター所長/

医療法人信和会 介護老人保健施設 樹心台)

(2) 放射能を取り除く 子ども達が胸をはれる福島の復興をめざして

児玉龍彦

(東京大学先端科学技術研究センター教授/

東京大学アイソトープ総合センター長)

3) 特別講演

(1) The IARC Monographs on Carcinogenic Risks to Humans. Recent Highlights and Medium-term Strategic Planning on Chemicals and Pharmaceuticals

Kurt Straif

(International Agency for Research on Cancer, WHO, France)

(2) Advances in Translation of Preclinical Pharmacology and Toxicology to the Clinic

Kay A. Criswell

(Drug Safety Research and Development, Pfizer Inc., USA)

- (3) 医療系リアルワールドデータを用いた新世代の臨床疫学, 薬剤疫学研究:薬物の安全性評価・予測にどう切り込むか
川上浩司
(京都大学大学院 医学研究科薬剤疫学分野)
- (4) 生体高分子の化学修飾解析: バイオマーカー研究と毒性学研究の接点
大江知行
(東北大学大学院 薬学研究科臨床分析化学分野)
- (5) 福島原発事故と低線量放射線の健康影響
神谷研二
(広島大学原爆放射線医科学研究所 分子発がん制御研究分野)
- 4) 教育講演
- (1) 農薬研究開発の歴史・現状
浅見忠男
(東京大学大学院 農学生命科学研究科)
- (2) The Science and Regulatory Compliance of the Assessment of the Abuse Potential of New Pharmaceuticals
Thomas J. Hudzik
(Global Pharmaceutical Research and Development, AbbVie Inc., USA)
- (3) 免疫寛容の破綻
山本一彦
(東京大学大学院 医学系研究科内科学専攻アレルギーリウマチ学)
- 5) シンポジウム (21 セッション)
- (1) ヒト iPS 細胞技術の薬剤安全性評価応用に向けた研究動向
- (2) 次世代研究者セミナー: 薬物の安全性評価における新たな挑戦
- (3) 【日本中毒学会合同】今話題の薬毒物中毒の基礎と臨床 —危険ドラッグから医薬品まで—
- (4) ナノマテリアルの毒性評価の進捗
- (5) 農薬の安全性と毒性の評価とその問題点
- (6) ヒト副作用リスク最小化に向けたトランスレーショナルリサーチ: 医薬品の副作用研究 *in vitro* から臨床まで
- (7) 毒性学における生体リズムの重要性を考える
- (8) 環境毒性学の新たな潮流 —環境汚染物質による生活習慣病, 生活環境病の増加・増悪とそのメカニズム—
- (9) Species Differences in Xenobiotic/Drug Metabolism ~異物/薬物代謝の種差解明の最先端~
- (10) 非臨床・臨床境界領域でのクロストーク —メカニズムベース・セーフティー戦略の構築—
- (11) 毒性学における活性イオン分子の意義を理解する
- (12) 環境化学物質が発達と成熟に及ぼす影響
- (13) 日本毒性病理学会協賛セミナー: 毒性試験における病理ピアレビューの最近の話題
- (14) 毒性シミュレーションおよび毒性ビッグデータマイニングの創薬への活用
- (15) 毒性発現の細胞内シグナル伝達機構
- (16) エピゲノミクス・ゲノミクス解析の進展と適応拡大する毒性オミクス
- (17) 小児用医薬品開発を考える
- (18) 実験発がん研究の新基軸 (故きを温ねて新しきを知る)
- (19) *In vitro* と *in vivo* の接点から探るエピジェネティック毒性
- (20) ゼブラフィッシュ研究の最前線
- (21) 類金属の化学と毒性学: その有用性と有害性のトレードオフからの脱却を目指して
- 6) ワークショップ (5 セッション)
- (1) 日米毒性学会の交流促進プログラム —免疫毒性の進捗— (SOT との合同企画)
- (2) メタロチオネイン研究の最前線 —誘導機構解明に向けた挑戦—
- (3) イオンチャネル型受容体の機能とその毒性学的な意義
- (4) 薬物性肝障害のスクリーニングに関する最新動向
- (5) 医薬品開発における適切な安全域設定のための多様な試み
- 7) 就職活動支援プログラム
安全性研究の現場紹介
(それぞれの職場で求められる専門性の向上と必要なコミュニケーション能力)
7. 一般講演
- 1) 一般演題は口演またはポスター発表とします。口演の発表時間は8分, 討論4分の12分です。発表方法は液晶プロジェクターのみです。ポス

ター発表は、毎日貼り替えてポスター展示を行い、途中に質疑応答時間（1時間）を設けます。

◆ポスター発表 質疑・応答（コアタイム）

6月29日（月）16：45～17：45

6月30日（火）16：30～17：30

7月1日（水）13：30～14：30

ポスターは縦180cm、横90cm以下のサイズで作成してください。

詳細は年会ホームページをご覧ください。

2) 優秀研究発表賞

応募者はポスター発表に加え、別会場で口頭発表（4分）と質疑応答（2分）を行っていただきます。発表データ（PowerPoint）は、年会当日受付いたします。受賞者の表彰は7月1日（水）14：30より行います。受賞者には、賞状と副賞を授与いたします。

8. 当日参加登録

当日参加の受付は、石川県立音楽堂1Fロビーの当日受付デスクで行ってください。

1) 参加費（当日受付）

学会員	13,000円
非学会員	16,000円
学生会員	4,000円
* 関連学会会員	14,000円
懇親会（一般）	11,000円
懇親会（学生）	5,000円

*は次の学会会員の方です。（順不同）

（一社）日本中毒学会

（公社）日本薬学会

日本毒性病理学会

日本免疫毒性学会

（公社）日本獣医学会

（公社）日本薬理学会

日本衛生学会

日本薬物動態学会

日本環境変異原学会

（公社）日本実験動物学会

（公社）日本産業衛生学会

（一財）日本製薬医学会

日本内分泌攪乱化学物質学会

日本先天異常学会

日本安全性薬理研究会

比較眼科学会

9. 懇親会

次の通り懇親会を開催いたしますので、是非ご参加下さい。

日時：2015年6月30日（火）午後6：45より

会場：金沢東急ホテル

5階「ボールルーム」

10. 年会事務局

事務局長

山本 千夏（東邦大学薬学部 教授）

〒274-8510 千葉県船橋市三山 2-2-1

TEL：047-472-1827 FAX：047-472-1233

E-mail：secretariat@jsot2015.jp

事務局次長

藤原 泰之（東京薬科大学薬学部 教授）

〒192-0392 東京都八王子市堀之内 1432-1

TEL：042-676-4495 FAX：042-676-4499

E-mail：secretariat@jsot2015.jp

11. 第42回日本毒性学会学術年会ホームページ

<http://jsot2015.jp/>

社員総会開催のご案内と委任状提出のお願い（再）

一般社団法人 日本毒性学会
社員（一般会員及び学生会員）各位

平素より日本毒性学会の活動、運営にご協力を賜り御礼申し上げます。

ご承知のとおり、本学会は2014年（平成26年）5月1日に一般社団法人化いたしました。これに伴い、定款第4章に定められておりますように、従来の「総会」に代わり、「社員総会」を学術年会期間中に開催いたします。

今年度は下記要領にて一般社団法人化後初めての社員総会を開催するはこびとなりました。社員（一般会員及び学生会員）各位におかれましては、ご出席賜りますようご案内申し上げます。

記

2015年度一般社団法人日本毒性学会社員総会
日 時：2015年6月30日（火）13時30分から14時40分
場 所：石川県立音楽堂 コンサートホール（第1会場）
議 案：1. 2014年度事業報告および収支決算
2. 2015年度事業計画および収支予算
3. その他

社員総会にご出席いただけない場合は、必ず委任状のご提出をお願い申し上げます。

委任状は、年会費振込用紙の「ご依頼人・通信欄」に委任状を印刷しておりますので、ここに記入し至急振り込んでいただくか、5月中旬に別途メールで配信しておりますFAX用委任状（各自で印刷していただき、FAX送信）による提出（提出締切り：6月15日）のいずれかの方法にてお願い申し上げます。

集計管理の為、できるだけ前者の方法による委任状の提出をお願い申し上げます。

社員総会の決議には、定款第24条に定められておりますように、総社員（一般会員及び学生会員）の議決権の「過半数」を有する社員の出席が必要です。定足数に満たない場合は社員総会として成立しなくなり、重要な議決事項が決定できず、本学会の運営に大きな支障を来すことになります。社員総会に欠席される場合には、必ず委任状をご提出されますよう、重ねてお願い申し上げます。

なお、昨年度の総会では、電磁的委任状システムを導入予定である旨お知らせしておりましたが延期となりました。ご了承のほど、よろしくお願い申し上げます。

また、お近くの会員の方に、社員総会へのご参加または委任状の提出をお勧めくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

2015年6月
一般社団法人日本毒性学会
理事長 眞鍋 淳

その他のお知らせ

**第 22 回 HAB 研究機構学術年会
「革新的医薬品創出のための基盤構築戦略」**

学術年会長 大森 栄 (信州大学医学部附属病院)
 日 時 2015 年 6 月 26 日 (金)・27 日 (土)
 会 場 昭和大学 上條講堂
 主 催 特定非営利活動法人 HAB 研究機構
 (<http://www.hab.or.jp>)
 後 援 一般社団法人日本毒性学会

招待講演 1

iPS 細胞を用いたヒト臓器創出技術の開発
 谷口英樹 (横浜市立大学大学院医学研究科)

招待講演 2

北海道大学におけるトランスレーショナル研究体制と大学
 における役割
 杉田 修 (北海道大学病院臨床研究開発センター)

招待講演 3

免疫チェックポイントを標的とした新しいがん免疫療法：
 抗 PD-1 抗体ニボルマブについて
 松本一郎 (小野薬品工業株式会社)

招待講演 4

薬物動態を制御する microRNA と創薬・個別化医療への
 展望
 中島美紀 (金沢大学大学院医薬保健学総合研究科)

シンポジウム I

「新薬創製における Non-P450 代謝の評価・予測技術」

佐能正剛 (広島大学大学院医歯薬保健学研究院)
 西原光洋 (武田薬品工業株式会社)
 中森文洋 (アステラス製薬株式会社)
 柴田芳宏 (大鵬薬品工業株式会社)

シンポジウム II

「創薬に活かす多能性幹細胞技術の進展」

石田誠一, 関野裕子 (国立医薬品食品衛生研究所)
 板野泰弘 (帝人ファーマ株式会社)
 妻木範行 (京都大学 iPS 細胞研究所)

シンポジウム III

「臨床試験を見据えた倫理規範について」

高橋未明 (厚生労働省医政局)
 田代志門 (昭和大学研究推進室)
 齊藤宏暢 (第一三共株式会社)
 稲垣 治 (日本製薬工業協会)

シンポジウム IV

「バイオマーカーを活用した薬効・毒性予測研究の最前線」

斎藤嘉朗, 齊藤公亮, 前川京子 (国立医薬品食品衛生研究所)
 大槻純男 (熊本大学大学院生命科学研究部)
 竹内健一郎 (アステラス製薬株式会社)
 里見佳典 (武田薬品工業株式会社)

■市民公開シンポジウム「健康な腸寿のすすめ」

座長：深尾 立 (HAB 研究機構)
 小林英司 (慶應義塾大学医学部)
 金井隆典 (慶應義塾大学医学部) 他

■ランチョンプレゼンテーション

オーガナイザー：金森敏幸 (産業技術総合研究所),
 柿木基治 (エーザイ株式会社)

年会 1 日目の昼食時には、ランチョンプレゼンテーション
 を開催します。今回は発表時間を拡大し、細胞アッセイ側の
 創意工夫と、創薬研究現場の現状やアッセイ装置への希望・
 期待について相互で議論できる場となることを祈念して企画
 をすすめております。多くの皆様方の積極的なご参加をお待
 ちしております。

※詳細はホームページ (<http://www.hab.or.jp>) にてご確認
 ください。

シンポジウム

「モレキュラー・キラリティー 2015」

会 期 平成 27 年 6 月 12 日 (金) - 13 日 (土)

会 場 早稲田大学西早稲田キャンパス
 (東京都新宿区大久保 3-4-1)

主 催 Molecular Chirality Research Organization (MCRO)

共催 (協賛) 学会

日本化学会, 日本薬学会, 高分子学会, 日本分析化学会,
 日本農芸化学会, 薬物動態学会, 日本毒性学会 (協賛),
 有機合成化学協会 (協賛)

招待講演者名 (予定)

Xinhua Wan (Peking University)
 Shunai Che (Shanghai Jiaotong University)
 Pance Naumov (New York University, Abu Dhabi)
 川端猛夫 (京都大学)
 小笠原正道 (北海道大学)
 碓合憲三 (東京理科大学)
 高田十志和 (東京工業大学)
 木村 剛 (大阪大学)
 菊池祐嗣 (九州大学)

八尾浩史 (兵庫県立大学)
三田貴史 (資生堂)

発表形式

一般口頭発表 16 件 (予定), ポスター発表 80 件 (予定),
ポスター発表を募集します。

会費

一般参加費 7,000 円 (当日 9,000 円)
学生参加費 4,000 円 (当日 5,000 円)

懇親会 6 月 12 日 (金) 講演会終了後

懇親会費 (原則として事前申込み)

一般懇親会費 7,000 円
学生懇親会費 5,000 円

討論主題

キラル化合物の薬理・毒性・体内動態, キラル分析,
キラル検出, 光学分割, 不斉合成, 機能性キラル材料,
不斉の起源, キラル化合物の工業的生産

参加登録予約申込方法 HP よりお申し込みください。

各申込締切日 発表申込締切 4 月 17 日 (金)
予稿原稿締切 4 月 23 日 (木)
事前登録締切 5 月 8 日 (金)

オーガナイザー

早稲田大学理工学術院 朝日 透, 鹿又宣弘

問合せ先

MC2015 事務局
E-mail: mc2015@list.waseda.jp
Tel: 03-5369-7327

学会ホームページ <http://www.waseda.jp/assoc-mc2015/>

CBI 学会 2015 年大会のご案内

「創薬のオープンイノベーション — 新領域と in silico
の接点— iPS 創薬・アカデミア創薬・ビッグデータ」

大会情報

大会ホームページ
<http://cbi-society.org/taikai/taikai15/index.html>
日時 2015 年 10 月 27 日 (火) - 29 日 (木)
会場 タワーホール船堀 (東京都江戸川区船堀 4-1-1)
大会長 堀内 正 (慶應義塾大学)
大会実行委員長 片倉晋一 (第一三共 RD ノバーレ株)

ポスター発表

演題区分・投稿の流れなど

<http://cbi-society.org/taikai/taikai15/poster.html>

投稿受付開始 2015 年 5 月 7 日 (木)

投稿募集分野

- 1) 分子認識と分子計算
- 2) インシリコ創薬
- 3) バイオインフォマティクスとその医学応用
- 4) 医薬品研究と ADMET
- 5) 上記に属さない先進的研究

プログラム概要

〈大会長講演, プレナリー講演, 招待講演〉

堀内 正 (慶應義塾大学)
福田恵一 (慶應義塾大学)
高橋良輔 (京都大学)
米田悦啓 (医薬基盤・健康・栄養研究所)
山本貴史 (東京大学 TLO)
北西由武 (塩野義製薬株)
田中 譲 (北海道大学)
水口裕之 (大阪大学)
妻木範行 (京都大学 iPS 細胞研究所)
浅見麻乃 (武田薬品工業株)
片岡 徹 (神戸大学)
松本俊二 (富士通株未来医療開発センター)
奥野恭史 (京都大学)
船津公人 (東京大学)
鈴木蘭美 (エーザイ株)

〈市民講座『地域医療のイノベーションと ICT』〉

石川智久 (NPO 法人地方再興・個別化医療支援)
塚原祐輔 (株理研ジェネシス)
北岡有喜 (国立病院機構・京都医療センター医療情報部)
岡崎光洋 (クロスケアフィールド株)

〈科研費新学術領域「分子ロボティクス」公開シンポジウム〉

参加登録期間と参加費

登録期間 2015 年 5 月 7 日 (木) ~ 2015 年 10 月 16 日 (金)

早期登録参加費 (9 月 30 日まで)

個人会員	12,000 円
一般 (非会員)	20,000 円
学生会員	2,000 円
学生非会員	5,000 円

参加費 (10 月 1 日以降)

個人会員	17,000 円
一般 (非会員)	25,000 円
学生会員	5,000 円
学生非会員	5,000 円

問合わせ先

CBI学会 2015年大会事務局
E-mail : cbi2015@cbi-society.org
<http://cbi-society.org/taikai/taikai15/index.html>

第22回日本免疫毒性学会学術年会 (JSIT2015)

期 日 平成27年9月10日(木)～11日(金)
会 場 京都大学百周年時計台記念館国際交流ホール
〒606-8501 京都市左京区吉田本町

アクセス

http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/campus/map6r_y.htm
バスをご利用の方は、京大正門前の下車が便利です。

テーマ 「免疫毒性の新たな視点—毒性影響とかく乱影響—」

プログラム

【特別講演】

「The Influence of Early Immune Signaling and the Microbiome on Immunomodulatory Responses following Exposure to the Antimicrobial Triclosan」
Dr. Stacey Anderson
Team Leader, Immunotoxicology and Hazard Identification laboratory
Allergen and Clinical Immunology Branch, Health Effects Laboratory Division
National Institute for Occupational Safety and Health

【教育講演】

「細胞がストレスを感じる仕組みと疾患」
一條秀憲 先生 (東京大学 薬学研究科 教授)

「環境微粒因子とアレルギー性鼻炎：モデルマウスを用いた増悪メカニズムの解明と治療技術の開発」
善本知広 先生 (兵庫医科大学 先端医学研究所 教授)

【シンポジウム】

「‘毒性’影響から‘かく乱’影響へ」
市瀬孝道 先生 (大分県立看護科学大学 看護学部 教授)
小池英子 先生 (国立環境研究所 環境健康研究センター 主任研究員)
柳澤利枝 先生 (国立環境研究所 環境健康研究センター 主任研究員)
伏木信次 先生 (京都府立医科大学 医学研究科 教授)
井口泰泉 先生 (基礎生物学研究所 環境生物学領域 教授)

【ワークショップ】

免疫影響の評価法について

【ランチョンセミナー】

【機器展示】

賞

年会において優秀な一般演題を発表した会員に対し、「年会賞」、並びに「学生・若手優秀発表賞」を贈呈する予定です。

発表形式

PCプロジェクターによる口頭発表とポスター発表の予定です。

演題募集期間 平成27年4月20日(月)～6月26日(金)(予定)

年会長 高野裕久

京都大学大学院工学研究科 都市環境工学専攻
環境衛生学講座・教授

事務局

担当 本田晶子
第22回日本免疫毒性学会学術年会事務局
京都大学大学院工学研究科 都市環境工学専攻
環境衛生学講座内
〒615-8540 京都市西京区京都大学桂
電話：075-383-3342
Fax：075-383-3344
Email：jsit22-office@health.env.kyoto-u.ac.jp
ホームページ：http://health.env.kyoto-u.ac.jp/jsit22-office
(現在作成中です)

J. Toxicol. Sci. 投稿規程

昭和51年 4月 1日制定
平成17年 8月 1日改定
平成24年10月 1日改定
平成26年 7月 1日改定

The Journal of Toxicological Sciences (略称: J. Toxicol. Sci.) は医薬品, 食品添加物, 食品汚染物質, 環境汚染物質をはじめ様々な物質の毒性に関する重要な知見や発現機構についての研究成果を掲載する学術雑誌である。本誌に投稿される論文は英語で執筆され, その内容が未発表及び未投稿で独創的な知見を含み, さらに, 内容を十分に理解出来るネイティブスピーカーによって英文チェックを受けたものに限る。なお, 投稿者は日本毒性学会の会員である必要はない。

1. 論文の種類

- (1) Original Article: 独創的研究によって得られた新知見を含む論文。文字数の制限はない。
- (2) Letter: 原則として刷り上がり3頁以内。公表する価値は十分あるもののOriginal Articleとしてはデータの不十分な研究成果, 十分な考察や意義付けはできないが興味深い現象などを掲載する。
- (3) Review 及び Minireview: 編集委員会が執筆を依頼する。興味深い最新の知見を全般的に紹介する総説をReviewとし, 主として著者らの最近の研究を紹介する総説をMinireviewとする。Reviewは頁数に制限を設けないが, Minireviewは刷り上がり3頁以内とする。
- (4) Special Issue: 一冊買い上げの形で研究成果等を本誌のSpecial Issueとして発行することができる(原則として50ページ以上)。詳細については電子メールで編集部にお問い合わせのこと。

2. 原稿の構成

A4ファイルに上下左右に2cmの余白を取り, 11ポイントの活字でシングルスペースで記述する。刷り上がりページ数が定められている論文種の場合は, 刷り上がり1頁の文字数がスペースを含めて約4,700字となることを考慮して原稿を作成する。表題頁を1頁として頁数の通し番号を下部中央に記す。

- (1) 第1頁(表題ページ)に表題, 著者名, 所属機関名とその所在地, 論文種別, running title(スペースを含めて70文字以内), カテゴリー(下記3参照)を記す。次いで日本語で, 連絡著者の氏名, 所属機関及び住所, 電話番号, E-mailアドレス(必須)を記載し, さらに, 英文チェックを受けたネイティブスピーカーの氏名(または会社名)及び住所を記入する。
- (2) 第2頁に250語以下のアブストラクト及び3~6語のキーワードを記す。アブストラクトは改行せず, Method, Resultsなどのサブタイトルは付けない。
- (3) 第3頁以後にIntroduction, Materials and Methods, Results, Discussion, Acknowledgments, Conflict of interest, Referencesの順番で本文を記述する。ResultsとDiscussionをまとめてResults and Discussionとして記述してもよい。

- (4) 略語: 初出時に一旦スペルアウトし, その直後に略語を()内に示し, 以下その略語を用いる。
- (5) 単位: 次のように使用する。 μm , mm, cm, m, μg , mg, g, kg, μL , mL, L, mmol, mol, μM , mM, M, ppm, mol/L, mg/mL, %, sec, min, hr, S.D., S.E., s.c., i.c., i.m., i.v., i.p., p.o., Bq, Ci, Sv, Gy, cpm, $^{\circ}\text{C}$ 。
- (6) 使用した試薬及び機器: 会社名, 都市(州), 国名を記載する。
- (7) 表: 本文と同じワープロソフトを用いてA4判の大きさで作成し, アラビア数字で一連の通し番号を付ける(例, Table 1)。タイトルは表の上部に, 注釈は表の下部にそれぞれ直接記入する。
- (8) 図: 著者の作製した図をそのまま版下に用いる。図の原稿は1つずつA4判1ページに収まるように作成し, アラビア数字で一連の通し番号をつける(例, Fig. 1)。図のタイトルおよび注釈は別紙にまとめてLegendsとして記載する。論文が採用された際には, 全ての図の電子ファイルを提出する必要がある。
- (9) 文献の引用: 本文中に文献を引用する際は, 著者名および年号を()内に記す[例, (Smith, 1999)または(Jones and Cohen, 2003)]。著者が3名以上の場合には筆頭著者のみを表示する[例, (Smith *et al.*, 2004)]。引用した論文はアルファベット順に並べて論文末尾にReferencesとして一覧表示する。記載順序は, 雑誌の場合は著者氏名, 年号, 論文名, 雑誌名の略称, 巻, 頁とし, 単行本の場合は著者氏名, 年号, 論文名, 書名, 編著者名, 頁, 発行所, 所在都市名とする。雑誌名の略称は, その雑誌が定めているものがある場合はそれを用い, それ以外はChemical Abstractに準ずる。

(例)

Kennedy, M.L., Smith, J.K. and Jones, W.T. (2005): The pharmacokinetics of methylmercury in new born rats. *J. Toxicol. Sci.*, **30**, 126-135.

Steel, J.M. and Whiteny, M.C. (2003): The effect of diethylstilbestrol on reproductive system in rat offspring. In *Toxicology of Diethylstilbestrol* (Walton, W.H., ed.), pp.551-564, Thomson Press, New York.

- (10) Supplemental Data: 一部のデータ(Methodの詳細, 追加データ, DNAマイクロアレイ解析の詳細結果など)をSupplemental Dataとして投稿論文に添付することが出来る。Supplemental Dataはオンライン版にのみ掲載される。

3. カテゴリー

第1頁(表題ページ)に下記の中から該当するカテゴリー(5つ以内)を選んで, 関連性の高いものから順番に記号を記載すること。

A1 医薬品 A2 農薬 A3 金属 A4 工業用化学物質 A5 トキシシン A6 食品添加物 A7 食品汚染物質 A8 環境汚染物質 A9 発がん性物質 A10 内分泌攪乱物質 A11 ナノマテリアル A12 放射線
 B1 脳神経系 B2 肝臓 B3 腎臓 B4 皮膚 B5 感覚器 B6 消化器 B7 呼吸器 B8 循環器 B9 生殖器 B10 胎児
 C1 一般毒性 C2 生殖毒性 C3 遺伝毒性 C4 発がん C5 行動毒性 C6 免疫毒性 C7 発達毒性 C8 薬毒物中毒 C9 薬物依存性 C10 細胞毒性 C11 酸化ストレス C12 炎症
 D1 蓄積・排泄 D2 キネティクス D3 薬物代謝 D4 毒性発現機構 D5 生体（細胞）応答 D6 毒性病理学 D7 毒性生化学 D8 分子毒性学 D9 毒性関連遺伝子 D10 安全性評価 D11 毒性試験法 D12 分析法 D13 トキシコミクス D14 統計解析法

4. 著作権

本誌に掲載された論文の著作権は日本毒性学会に帰属するものとする。転載時には、その都度本編集部への許可を必要とする。

5. ヒトや動物を対象とした論文

人体ならびにヒト組織を対象とした論文は「ヘルシンキ宣言」(<http://www.wma.net/en/30publications/10policies/b3/index.html>) の倫理基準に、またヒト遺伝子に関する論文は「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」(<http://www.mhlw.go.jp/general/seido/kousei/i-kenkyu/genome/0504sisin.html>) に従い、かつ、何れの場合も所属機関の倫理委員会の承認を得て実施されたものに限って投稿を受け付ける。また、動物を対象とした論文は文部科学省など公的機関の策定した動物実験ガイドラインに従って実施されたものに限る。いずれも当該論文がこれらに従って実施されたことを本文中に明記する必要がある。

6. 利益相反の開示

投稿論文の全ての著者は、研究の結果や解釈に影響を及ぼす可能性のある金銭的利益関係について開示する必要がある。

7. 原稿の投稿

原稿はオンライン投稿システム (<https://www.e-kenkyu.com/jtoxicol-sci/>) から投稿すること。その他の方法による投稿は受け付けない。投稿原稿は Microsoft Word ファイルまたは PDF ファイルに限る。表および図は本文の末尾に貼り付け、一つのファイルとして投稿すること。本文と図表が別ファイルになっている論文の投稿は受け付けない。投稿時に原稿と別にカバーレター（日本語可）を添付することができる。

8. その他

- (1) 採用が決定した場合には、Microsoft Word で作成した最終原稿（本文および表）ファイルと図のファイルを提出する必要がある。
- (2) 著者校正を 1 回行うが、誤植のみの訂正とし、追加や書き改めは認めない。

9. Executive Editors

若干名の Executive Editor をおく。Executive Editor の選考は編集委員会に設けられた Executive Editor 小委員会が行う。Executive Editor が責任著者になっている論文または Executive Editor が推薦する論文は編集委員会の審査を受けることなく採用する。Executive Editor はこれらの論文を編集部に送付する前に、自身と所属の異なる 2 名の専門家に査読を依頼しなければならない。掲載論文にはその論文を投稿または推薦した Executive Editor の氏名が記載される。

10. 掲載料

掲載料は以下の表を参照のこと（消費税別）。別刷は別途申し受ける（有料：実費）。請求書は発行後に責任著者宛に送付する。

	掲載料（円／頁）	カラー写真 ^b （円／頁）
Original Article	6,000	40,000
Letter	12,000 ^a	40,000
Special Issue	20,000	40,000
招待総説	無料	20,000

^a：4 頁目からは 16,000 円／頁。 ^b：図等も含む。

Fundam. Toxicol. Sci. 投稿規程

平成 26 年 7 月 1 日制定

Fundamental Toxicological Sciences (略称:Fundam. Toxicol. Sci.) は医薬品, 食品添加物, 食品汚染物質, 環境汚染物質, 天然物成分およびその他の化学物質が示す毒性や様々な指標に与える影響, さらに, それら物質の安全性評価や研究手法など毒性学全般にわたる研究成果を掲載するオープンアクセスの電子学術雑誌である。掲載論文は peer-review によって決定され, 原則として投稿から 2 週間以内に採用または却下の判定が下される。採用と判定され, かつ, 掲載料が支払われた論文を順次ウェブサイト公表する。本誌に投稿される論文は英語で執筆され, その内容が未発表及び未投稿で独創的な知見を含み, さらに, 内容を十分に理解出来るネイティブスピーカーによって英文チェックを受けたものに限る。投稿者は日本毒性学会の会員である必要はない。

1. 論文の種類

- (1) Original Article : 独創的研究によって得られた新知見を含む論文。
- (2) Letter : 公表する価値は十分あるものの Original Article としてはデータのに不十分な研究成果, 十分な考察や意義付けはできないが興味深い現象, ネガティブデータだが学術的重要性が高いと思われる知見などを掲載する。
- (3) Toxicomics Report : 毒性や生体応答に関わる遺伝子および蛋白質に関する独創的な知見を掲載する。対象となる物質によって発現量が変動する遺伝子群 (または蛋白質群) に関するデータ (DNA アレイ分析の結果など) や毒性発現に影響を与える遺伝子 (または蛋白質) の同定などが該当する。DNA アレイ分析結果などは 1 つの物質について 1 論文, 毒性発現に関わる遺伝子の同定は 1 つの遺伝子について 1 論文とすることができる。また, 毒性に関わる遺伝子の新たな多型の発見や, 既存の遺伝子多型と薬効等との関連性を検討した結果 (ネガティブデータでも可) なども掲載対象とする。本論文種は情報提供を目的としたものなので, 考察や意義付けが十分にされていなくても良い。
- (4) Review 及び Minireview : 興味深い最新の知見を全般的に紹介する総説を Review とし, 主として著者らの最近の研究を紹介する総説を Minireview とする。

2. 原稿の構成

A4 判に上下左右に 2cm の余白を取り, 11 ポイントの活字でシングルスペースで記述する表題頁を 1 頁として頁数の通し番号を下部中央に記す。

- (1) 第 1 頁 (表題ページ) に表題, 著者名, 所属機関名とその所在地, 論文種別, running title (スペースを含めて 70 文字以内), カテゴリー (下記 3 参照) を記す。次いで日本語で, 連絡著者の氏名, 所属機関及び住所, 電話番号, E-mail アドレス (必須) を記載し, さらに, 英文チェックを受けた

ネイティブスピーカーの氏名 (または会社名) 及び住所を記入する。

- (2) 第 2 頁に 250 語以下のアブストラクト及び 3 ~ 6 語のキーワードを記す。アブストラクトは改行せず, Method, Results などのサブタイトルは付けない。
- (3) 第 3 頁以後に Introduction, Materials and Methods, Results, Discussion, Acknowledgments, Conflict of interest, References の順番で本文を記述する。Results と Discussion をまとめて Results and Discussion として記述してもよい。
- (4) 略語: 初出時に一旦スペルアウトし, その直後に略語を () 内に示し, 以下その略語を用いる。
- (5) 単位: 次のように使用する。µm, mm, cm, m, µg, mg, g, kg, µL, mL, L, mmol, mol, µM, mM, M, ppm, mol/L, mg/mL, %, sec, min, hr, S.D., S.E., s.c., i.c., i.m., i.v., i.p., p.o., Bq, Ci, Sv, Gy, cpm, °C .
- (6) 使用した試薬及び機器: 会社名, 都市 (州), 国名を記載する。
- (7) 表: 本文と同じワープロソフトを用いて A 4 判の大きさで作成し, アラビア数字で一連の通し番号を付ける (例, Table 1)。タイトルは表の上部に, 注釈は表の下部にそれぞれ直接記入する。
- (8) 図: 著者の作製した図をそのまま版下に用いる。図の原稿は 1 つずつ A 4 判 1 ページに収まるように作成し, アラビア数字で一連の通し番号をつける (例, Fig. 1)。図のタイトルおよび注釈は別紙にまとめて Legends として記載する。論文が採用された際には, 全ての図の電子ファイルを提出する必要がある。
- (9) 文献の引用: 本文中に文献を引用する際は, 著者名および年号を () 内に記す [例, (Smith, 1999) または (Jones and Cohen, 2003)]. 著者が 3 名以上の場合には筆頭著者のみを表示する [例, (Smith *et al.*, 2004)]. 引用した論文はアルファベット順に並べて論文末尾に References として一覧表示する。記載順序は, 雑誌の場合は著者氏名, 年号, 論文名, 雑誌名の略称, 巻, 頁とし, 単行本の場合は著者氏名, 年号, 論文名, 書名, 編著者名, 頁, 発行所, 所在都市名とする。雑誌名の略称は, その雑誌が定めているものがある場合はそれを用い, それ以外は Chemical Abstract に準ずる。

(例)

- Kennedy, M.L., Smith, J.K. and Jones, W.T. (2005) : The pharmacokinetics of methylmercury in new born rats. *J. Toxicol. Sci.*, **30**, 126-135.
- Steel, J.M. and Whiteny, M.C. (2003) : The effect of diethylstilbestrol on reproductive system in rat offspring. In *Toxicology of Diethylstilbestrol* (Walton, W.H., ed.), pp.551-564, Thomson Press, New York.

(10) Supplemental Data：一部のデータ（Methodの詳細、追加データ、DNAマイクロアレイ解析の詳細結果など）をSupplemental Dataとして投稿論文に添付することができる。

3. カテゴリー

第1頁（表題ページ）に下記の中から該当するカテゴリー（5つ以内）を選んで、関連性の高いものから順番に記号を記載すること。

A1 医薬品 A2 農薬 A3 金属 A4 工業用化学物質 A5 トキシン A6 食品添加物 A7 食品汚染物質 A8 環境汚染物質 A9 発がん性物質 A10 内分泌攪乱物質 A11 ナノマテリアル A12 放射線
 B1 脳神経系 B2 肝臓 B3 腎臓 B4 皮膚 B5 感覚器 B6 消化器 B7 呼吸器 B8 循環器 B9 生殖器 B10 胎児
 C1 一般毒性 C2 生殖毒性 C3 遺伝毒性 C4 発がん C5 行動毒性 C6 免疫毒性 C7 発達毒性 C8 薬物中毒 C9 薬物依存性 C10 細胞毒性 C11 酸化ストレス C12 炎症
 D1 蓄積・排泄 D2 キネティクス D3 薬物代謝 D4 毒性発現機構 D5 生体（細胞）応答 D6 毒性病理学 D7 毒性生化学 D8 分子毒性学 D9 毒性関連遺伝子 D10 安全性評価 D11 毒性試験法 D12 分析法 D13 トキシコミクス D14 統計解析法

4. 著作権

本誌に掲載された論文の著作権は日本毒性学会に帰属するものとする。転載時には、その都度本編集部の許可を必要とする。

5. ヒトや動物を対象とした論文

人体ならびにヒト組織を対象とした論文は「ヘルシンキ宣言」(<http://www.wma.net/en/30publications/10policies/b3/index.html>)の倫理基準に、またヒト遺伝子に関する論文は「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」(<http://www.mhlw.go.jp/general/seido/kousei/i-kenkyu/genome/0504sisin.html>)

に従い、かつ、何れの場合も所属機関の倫理委員会の承認を得て実施されたものに限って投稿を受け付ける。また、動物を対象とした論文は文部科学省など公的機関の策定した動物実験ガイドラインに従って実施されたものに限る。いずれも当該論文がこれらに従って実施されたことを本文中に明記する必要がある。

6. 利益相反の開示

投稿論文の全ての著者は、研究の結果や解釈に影響を及ぼす可能性のある金銭的利益関係について開示する必要がある。

7. 原稿の投稿

原稿はオンライン投稿システム (<https://www.e-kenkyu.com/fts-scied/>) から投稿すること。その他の方法による投稿は受け付けない。投稿原稿はMicrosoft WordファイルまたはPDFファイルに限る。表および図は本文の末尾に貼り付け、一つのファイルとして投稿すること。本文と図表が別ファイルになっている論文の投稿は受け付けない。投稿時に原稿と別にカバーレター（日本語可）を添付することができる。

8. その他

- (1) 採用が決定した場合には、Microsoft Wordで作成した最終原稿ファイル（本文および図表）を提出する必要がある。
- (2) 著者校正を1回行うが、誤植のみの訂正とし、追加や書き改めは認めない。
- (3) 別刷は原則として作製しない。ただし実費での作成は可能。

9. 掲載料

掲載料は、基本料（論文1報当たり）および当該論文に含まれる総単語数と図、表、引用文献のそれぞれの数に応じた金額とする（以下の表参照）。請求書は採用決定後に責任著者宛に送付する。掲載料の支払が確認された論文のみを掲載する。迅速に掲載するために、支払いは原則としてクレジットカードのみとする。期限までに支払いが行われない論文は「採用取り消し」とする。

論文種	掲載料（消費税別）				
	基本料 （円／論文）	単語 ^a （円／単語）	図 ^b （円／図）	表 ^b （円／表）	引用文献 ^b （円／文献）
Original Article	20,000	4	2,500	3,000	150
Letter	30,000	5	2,500	3,000	150
Toxicomics Report	30,000	6	2,500	3,000	150
Review	30,000	5	2,500	3,000	150
Minireview	40,000	5	2,500	3,000	150

^a 本文（Abstract, Introduction, Materials and Methods, Results, Discussion），図表の説明，および引用文献の単語数の合計。^b 論文原稿に含まれる単語，図，表，引用文献の1個当たりの金額。カラーを含む図は追加料金なしで掲載。

入 会 案 内

1. 本会に入会を希望される方は、「一般社団法人日本毒性学会定款」の内容を了承の上、本会ホームページの「入会案内」(<http://www.jsot.jp/about/admission.html>)より入会申請フォームでお申し込み下さい。
申し込みにあたり、本学会評議員1名の推薦が必要となります。学生会員として入会を希望される方は評議員の推薦に加え、所定欄に所属研究室指導教員1名の推薦が必要です。
評議員については「評議員リスト」(http://www.jsot.jp/about/list_councilor.html)をご覧ください。評議員のe-mailアドレスは評議員の先生に直接お尋ね下さい。
2. 理事長による入会の承認(定款第10条参照)が得られた後、事務局より年会費の郵便振替用紙をご送付いたします。
3. 年会費の納入が確認された時点で入会が完了し、会員として登録されます。
4. 本会の年度は5月1日から4月30日です。
5. 機関誌「The Journal of Toxicological Sciences」はご指定の住所宛にご送付いたします。尚、年度の途中から入会された場合、希望者には入会年度の機関紙開始号であるNo.3からご送付いたしますので、入会申請フォームのバックナンバー欄に希望の有無のチェックを入れて下さい。
6. 年会費および会員の種別は次の通りです。

一般会員	7,000円
(ただし定款第16条に定めた評議員は10,000円)	
学生会員	3,000円
賛助会員	100,000円

(1.0口)以上(0.2口単位で増やすことができる)
*本年度入会希望の方は、4月20日までに年会費のお振込みをお願いします。それ以降にお振込みいただいた場合は、次年度入会となりますのでご了承下さい。

変 更 手 続 き

ご登録内容の変更は、本会ホームページの「会員専用」ページ (<https://sct.mtpro.jp/user/jsot/>)へログインし、手続きを行って下さい。

退会手続きは、本会ホームページの「会員専用」ページ (<https://sct.mtpro.jp/user/jsot/>)へログインし、手続きを行って下さい。

一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規程

一般社団法人日本毒性学会教育委員会

平成 9 年 7 月 24 日制定 平成 24 年 1 月 1 日改定
 平成 15 年 7 月 19 日改定 平成 26 年 5 月 1 日改定
 平成 19 年 1 月 16 日改定 平成 26 年 6 月 17 日改定
 平成 21 年 7 月 5 日改定 平成 27 年 2 月 23 日改定
 平成 23 年 1 月 14 日改定

1. 目的

日本毒性学会（JSOT）は、毒性学の進歩発展、安全性試験と安全性評価の信頼性向上に資する毒性学に精通したトキシコロジストを認定するために JSOT 認定トキシコロジスト制度を設ける。

2. 認定試験小委員会

認定試験を実施するため、JSOT 教育委員会の下に認定試験小委員会を設置する。認定試験小委員会に関する細則は別に定める。

3. 認定試験

- (1) JSOT 認定トキシコロジストとして認定を受けようとする者は、JSOT が行う書類審査ならびに認定試験に合格しなければならない。
- (2) 書類審査および認定試験は教育委員会が主催し、理事会の審議を経て、理事長が認定を行う。認定試験小委員会はこれらの実務を行う。
- (3) 書類審査基準は次の通りとする。
 - (イ) 出願時に JSOT の会員であること。
 - (ロ) 出願時に 6 年制大学卒業後 5 年以上、4 年制大学卒業後 7 年以上、短期大学卒業後 10 年以上、高等学校卒業後 12 年以上、およびそれ以外の者ではこれに準ずる年数の毒性学領域における実績を有する者であること。
 毒性学領域における実績期間には、毒性学関連の職歴および大学院等における毒性学関連の研究期間を含めるものとする。ただし、修学期間、就業期間および研究実績期間の重複は多重に計上しない。その他、大学等への入学前の実績期間や複数の大学等での修学の取り扱い等に関する疑義解釈は、教育委員会が行う。

- (ハ) 別表の受験資格評点基準に従って、総合点が 80 点以上に達していること。
- (ニ) 上記のうち、基準に満たない要件がある者についても、理事長が特に認めた場合、受験資格を与える場合がある。

- (4) 認定試験は原則として年 1 回実施し、筆記試験とする。
- (5) 受験料は 3 万円とする。
- (6) 資格審査および試験実施細目については別に定める。

4. 認定

- (1) 合格者は認定を受けるために認定料を支払わなければならない。認定料は 2 万円とする。
- (2) JSOT 認定トキシコロジストに適格でない事由が生じた場合、認定を取り消すことがある。

5. 認定資格更新

認定資格取得後 5 年毎に資格更新を行う。資格更新に関する細則は別に定める。

6. 名誉トキシコロジスト

別途細則に定める要件を満たした者を名誉トキシコロジストとして表彰する。

7. その他

この規程の改定は教育委員会の議を経て、JSOT 理事会の承認を得るものとする。

付則 平成 27 年 2 月 23 日改定の本規程は同日から施行する。

(付) 日本毒性学会（JSOT）認定トキシコロジスト受験資格のための評点基準

種別	評点項目	参加	発表 ¹⁾
論文	毒性学関連論文 ²⁾		10 (5) / 編
学会活動	JSOT 学術年会 毒性学に関連する学会 ³⁾ の学術年会	10 / 回 5 / 回	10 (5) / 回
講習会等	基礎教育講習会 JSOT 主催・公認講習会 ⁴⁾	40 / 回 5 / 回	

1) 筆頭著者もしくは責任著者（corresponding author）については 10 点、それ以外の共同発表の場合は 5 点とする。

2) レフリー制度が整っている学術誌に限る。

3) IUTOX 定期総会（ICT）、ASIATOX 定期総会、SOT 年会、EUROTOX 年会、日本安全性薬理研究会、日本衛生学会、日本環境変異原学会、日本産業衛生学会、日本獣医学会、日本実験動物学会、日本製薬医学会、日本先天異常学会、日本中毒学会、日本毒性病理学会、日本内分泌攪乱化学物質学会、日本免疫毒性学会、日本薬学会、日本薬物動態学会、日本薬理学会

4) JSOT 生涯教育講習会等

一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定資格更新に関する細則

一般社団法人日本毒性学会教育委員会

平成 12 年 6 月 29 日制定	平成 24 年 7 月 5 日改定
平成 15 年 7 月 19 日改定	平成 24 年 12 月 12 日改定
平成 19 年 1 月 16 日改定	平成 26 年 5 月 1 日改定
平成 21 年 7 月 5 日改定	平成 26 年 6 月 17 日改定
平成 23 年 1 月 14 日改定	平成 27 年 2 月 23 日改定
平成 24 年 1 月 1 日改定	

- 本細則は日本毒性学会（JSOT）認定トキシコロジストの認定制度規程に基づき制定されたものである。
- 認定資格の継続を希望する者は、理事長宛に資格更新の申請を行うものとする。
- 資格更新者は下記の基準を満たす者とする。
 - 資格更新申請時において、過去 5 年間継続して JSOT 会員であること。
 - 資格更新申請時において、過去 5 年間に以下に定める評点基準に従って総合点が 80 点以上であること。
 - 資格更新申請時において、以下の評点基準のカテゴリー II に定める学会に、過去 5 年間に 1 回以上参加していなければならない。但し、65 歳以上の場合、あるいは特別な事情により理事長が認めた場合に限り本基準は免除される（本基準項目は、平成 26 年の更新該当者から適用する）。
 - 資格更新時に実施する資格更新試験に合格すること。ただし、本試験は過去 5 年間に出题された認定試験問題の中から認定試験小委員会から選出した問題を申請者に送付し、一定期間後に回収することで実施する。80%以上の正答を以て合格とする。なお、この基準に満たなかった者においては 1 回を限度に再試験を行い、その結果正答率が 80%以上に達した場合には合格とする。
- 理事長は資格更新申請を受け、教育委員長に審査を委嘱する。審査の実務は認定試験小委員会が行う。
- 認定試験小委員会は資格更新申請者からの申請が上記 3. の基準を満たしているか否かを審査し、その結果を、教育委員長を経て理事長に答申する。
- 理事長は答申案を理事会に諮り、資格更新者を決定し、申請者に通知する。
- 申請者は通知日より 2 ヶ月以内に更新料を学会に納入する。
- 理事長は更新料が納入されたことを確認し、認定書を交付する。
- 資格更新時に止むを得ざる理由により手続きが出来なかった者の取り扱いについては理事長が判断する。
- 65 歳以上（該当年の 12 月 31 日現在）の時点で認定トキシコロジストの有資格者であり、且つ 15 年以上の認定資格歴のある者は、「名誉トキシコロジスト」としての表彰を受けることができる。名誉トキシコロジスト表彰については別途細則にて定める。
- 本細則の改定は教育委員会の議を経て、JSOT 理事会の承認を得るものとする。

付則：平成 27 年 2 月 23 日改定の本細則は同日から施行する。

評 点 基 準

カテゴリー	評 点 項 目	評 点	上限 (5 年間)
I	認定試験の問題作成	20 / 回	80
II	学会活動 JSOT 学術年会 参加 / 発表 毒性学に関連する学会 ¹⁾ の学術年会 参加 / 発表	5 / 回	25
III	JSOT 主催・公認講習会等 ²⁾ (講師を含む)	5 / 回	25
IV	毒性学関連論文 ³⁾	5 / 編	25

¹⁾ IUTOX 定期総会 (ICT), ASIATOX 定期総会, SOT 年会, EUROTOX 年会, 日本安全性薬理研究会, 日本衛生学会, 日本環境変異原学会, 日本産業衛生学会, 日本獣医学会, 日本実験動物学会, 日本製薬医学会, 日本先天異常学会, 日本中毒学会, 日本毒性病理学会, 日本内分泌攪乱化学物質学会, 日本免疫毒性学会, 日本薬学会, 日本薬物動態学会, 日本薬理学会

²⁾ JSOT 基礎教育講習会・JSOT 生涯教育講習会等

³⁾ レフリー制度が整っている学術誌に限る

一般社団法人 日本毒性学会

[名誉会員]

塚田 裕三	石川 栄世	今道 友則	堀口 俊一
亀山 勉	福田 英臣	柳田 知司	池田 正之
加藤 隆一	白須 泰彦	黒岩 幸雄	井村 伸正
佐藤 哲男	林 裕造	渡辺 民朗	高橋 道人
榎本 眞	小野寺 威	遠藤 仁	菅野 盛夫
黒川 雄二	鎌滝 哲也	赤堀 文昭	土井 邦雄

[功労会員]

高仲 正	前川 昭彦	佐藤 温重	上野 芳夫
安田 峯生	菊池 康基	田中 悟	大沢 基保
今井 清	福島 昭治	降矢 強	玄番 宗一
松澤 利明	唐木 英明	仮家 公夫	暮部 勝
津田 修治	野村 護	牧 栄	長尾 拓
堀井 郁夫	大野 泰雄	山添 康	吉田 武美

[役員] (2014～2015年度)

理事長	眞鍋 淳	天野 幸紀	上野 光一
理事	青木 豊彦	天野 幸紀	上野 光一
	小野寺博志	鍛冶 利幸	菅野 純
	北嶋 聡	熊谷 嘉人	佐藤 雅彦
	関 二郎	苗代 一郎	西川 秋佳
	久田 茂	姫野誠一郎	広瀬 明彦
	務台 衛	横井 毅	吉田 緑
監事	和久井 信		
	落合 敏秋	佐神 文郎	

[学術年会長]

第42回 (2015年) 鍛冶 利幸
 第43回 (2016年) 佐藤 雅彦

[委員会] (2014～2015年度)

●印：常置委員会 ◆印：小委員会

- 総務委員会
 - 北嶋 聡 (委員長)
 - 青木 豊彦 鍛冶 利幸 菅野 純
 - 熊谷 嘉人 眞鍋 淳 務台 衛
 - 菅野 純 (委員長)
 - 中村 和市 広瀬 明彦 (委員長)
 - 横井 毅 佐藤 雅彦 (委員長)
 - 小川久美子 佐藤 雅彦 (委員長)
 - 遠山 千春 津田 修治 (委員長)
 - 北嶋 聡 (委員長)
 - (委員非公開)
 - 関 二郎 (委員長)
 - 中村 和市 西川 秋佳 西田 信之
 - 青木 豊彦 (委員長)
 - 関 二郎
 - 鍛冶 利幸 (委員長)
 - 鍛冶 利幸 (委員長)
 - 永沼 章 (委員長)
 - 永沼 章 (委員長)
 - 鍛冶 利幸 堀井 郁夫 吉田 武美
 - 野村 俊治 (委員長)
 - (副委員長以下非公開)
 - 務台 衛 (委員長)
 - 鈴木 雅実 (委員長)
 - 五十嵐勝秀 石塚真由美 於勢 佳子
 - 鈴木 睦 姫野誠一郎 義澤 克彦
 - 小野寺博志 (委員長)
 - 尾崎 博 (副委員長)
 - 朝倉 省二 桑原 正貴 古川 賢
 - 宮本 索 和久井 信
 - 久米 英介 (委員長)
 - (副委員長以下非公開)
 - 熊谷 嘉人 (委員長)
 - 吉田 武美 (委員長)
 - (委員非公開)
 - 永沼 章 (委員長)
 - 久田 茂 (委員長)
 - (委員非公開)
 - 永沼 章 (委員長)
 - (委員非公開)
 - 熊谷 嘉人 (委員長)
 - (委員非公開)
 - 苗代 一郎 (委員長)
 - 佐藤 雅彦 吉田 緑
 - 久田 茂 (委員長)
 - 姫野誠一郎 (副委員長)
 - 伊藤 志保 橋本 愛
 - 永沼 章 (相談役)
- ◆連携小委員会
- ◆評議員選考小委員会
- ◆名誉会員および功労会員選考委員会 (2015年度)
- ◆法人化小委員会 (2015年の社員総会終了をもって解散)
- 財務委員会
- 編集委員会
 - ◆JTS編集委員会
 - ◆FTS編集委員会
 - ◆Executive Editor 小委員会
 - ◆田邊賞選考小委員会 (2015年度)
- 教育委員会
 - ◆生涯教育小委員会
 - ◆基礎講習会小委員会
 - ◆認定試験小委員会
- 学術広報委員会
 - ◆学会賞等選考小委員会
 - ◆学会特別賞等選考小委員会
 - ◆技術賞選考小委員会 (2015年度)
 - ◆望月喜多司賞選考小委員会 (2015年度)
 - ◆日化協 LRI 賞選考小委員会 (2015年度)
 - ◆学術小委員会
 - ◆広報小委員会
- ★その他関連の委員会
 - IUTOX President-elect 菅野 純
 - IUTOX 担当 広瀬 明彦
 - ASIATOX 担当 永沼 章

2015年6月1日 印刷

2015年6月1日 発行

発行人 眞鍋 淳

編集人 鍛冶 利幸

発行所 一般社団法人日本毒性学会

学会事務局 〒102-0074 東京都千代田区九段南 2-1-30

イタリア文化会館ビル 8F

株式会社メディカルトリビューン内

一般社団法人日本毒性学会事務局

TEL (03) 3239-7264 FAX (03) 3239-7225

E-mail : jsotq@jsot.jp

振替 00150-9-426831

http://www.jsot.jp

印刷所 株式会社仙台共同印刷

〒983-0035 仙台市宮城野区日の出町二丁目4-2

TEL (022) 236-7161